

12.10 winter 2022

〒810-0001 福岡市中央区天神5丁目2-1

公益社団法人 福岡県美術協会(福岡県立美術館内)

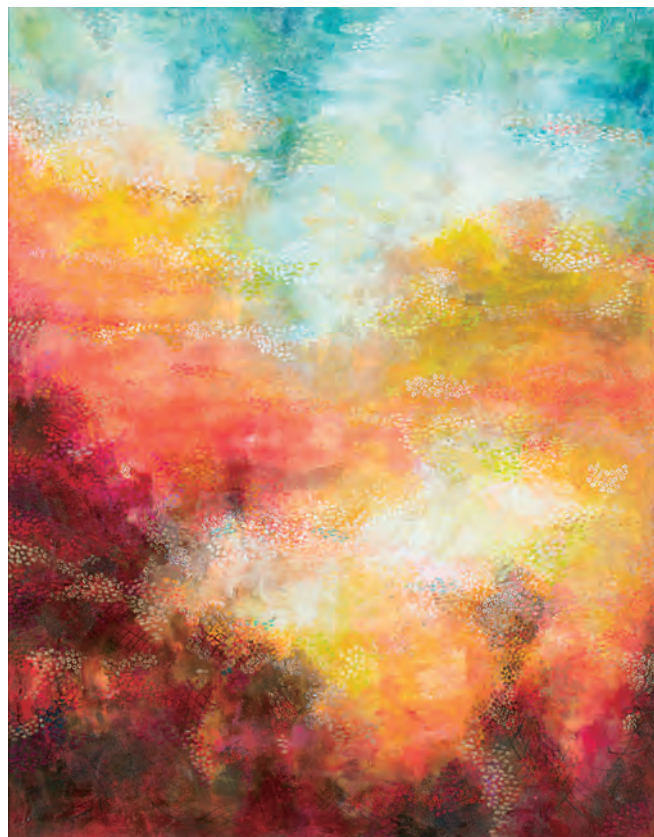
tel:092-713-4200 fax:092-791-1472

E-mail: fasartseven@wing.ocn.ne.jp

<https://fukuoka-ken-art-society.com/>

## 第77回 福岡県美術展覧会 〈会員の部〉

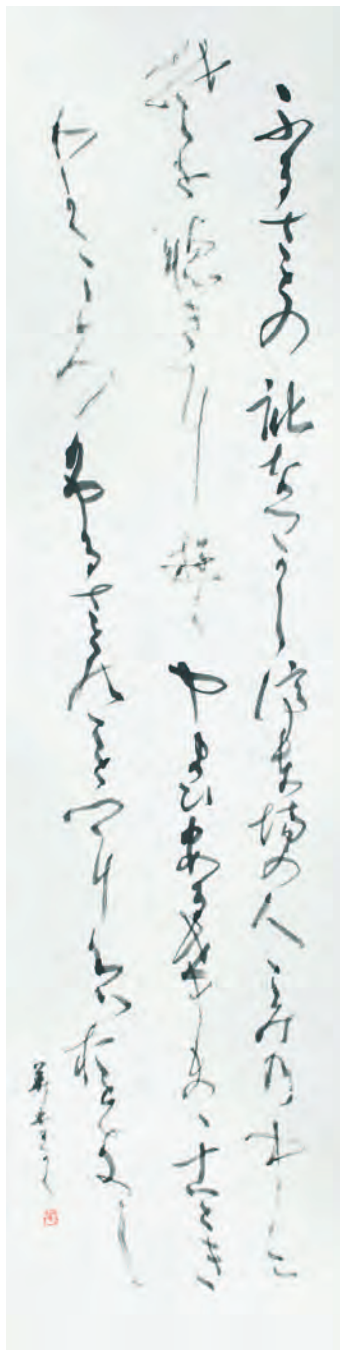
洋画  
松永 瑠美  
「alive」  
青木寿賞



この度は、青木寿賞を賜り誠にありがとうございました。

「alive」というタイトルには生きているという意味があり、抽象的な表現ではありますが、生命や細胞を意識しています。

まだまだ模索しながら制作している日々ですが、悩みながらも作品は正に生きていることを実感しながら描きました。



書  
師村 華香  
「石川啄木の歌二首」  
福岡県美術協会賞

石川啄木の歌の心情が伝わる作品にしたい、と思いました。

原文を尊重し、変体がなをできるだけ減らし、読みやすくしたいと考えました。美しく、強く、しなやかな線と、墨の潤滑、文字の大小、疎密感にも配慮しました。現代にも通じる啄木の孤独感と悲壮感に、手を差しのべる思いで書き続けたことが忘れられません。



デザイン  
田邊 幹夫  
「ポスター」  
福岡県美術協会賞

ある時、幼い孫たちのラクガキを目にした時、これは面白いと思いました。線画の虫の絵でした。シヨベルカー、花火、カエル、骸骨、お化け、怪獣、魚など次々に描きました。早速パソコンに取り込み、私の好きなように、CG画にしました。私にとって孫のラクガキは、大切な宝物です。





洋画 津國進

「時の迷路」  
福岡県美術協会賞

その時々新聞、書物などをヒントに想像を膨らませ、思いついたモチーフをキャンバスに描き込んでいきます。今回の絵画は画面に廃棄されたものを配置し、環境問題などの危うさ、解決の糸口が見えない空しさを表現してみました。物語を創り空想の世界を楽しむものは鑑賞する側で、それぞれに物語ができれば幸いです。

書 宮崎 紫穂

「漢詩」  
福岡県美術協会賞

身に余る賞に、今後の作品創作に対しての、心の襟を正しております。今迄は三、四行ものを提出してましたが、今回は初めて二行に挑戦しました。当然、字数が少ない為「一字」が主役として丁寧に表現して行かなければなりません。真摯に謝りたい文字がいくつかあります。今後の課題として取り組んで参りたいと思っております。



洋画 原信之

「Leon's afternoon」  
山本文房堂賞

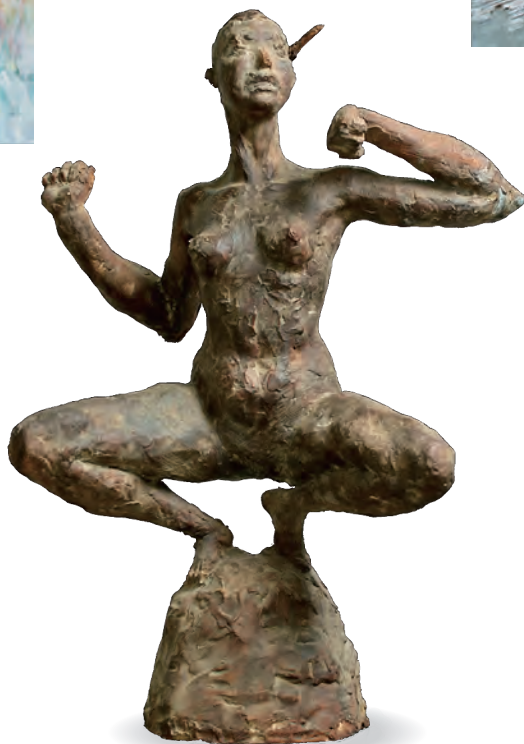
思いがけずに、素晴らしい賞をいただき、関係各位の皆様方に心より御礼申し上げます。最近、顔ばかり描いております。様々な顔を描きながらも、全てには自画像なのかな?とも思います。

絵は、これからも日々揺れ動く弱き自身の心を映し出す鏡のような物かもしれません。描く事で、救われているのでしょうか。日々精進致します。



日本画 峰松 由布子  
「Sparkle」  
福岡県美術協会賞

光彩(美しく輝く光)という意味の題名をつけました。夏の自然の中に、瞬間的に現れる幾重にも重なる光の粒と、その余韻を表現したいと思い描きました。強くも優しい、煌めきを感じていただけたら幸いです。このような賞を頂戴し、大変光栄に存じます。これを励みに、今後も制作に精進して参ります。



彫刻 灰塚 みゆき

「夜風に乗って」  
安永良徳賞

作品を制作している際に、「今作っているこの像に、命が吹き込まれ、動きだしたら楽しいだろうな」と思うことがあります。姉のようであり友達のようなこの像が、夜のアトリエで動き出し、おしゃべりして一緒に遊び回ることができれば、なんて楽しいだろうとワクワクします。







# 写真 関智恵子

## 「神雷の波」

福岡県美術協会賞

神秘的な佇まいの海中鳥居、まさに海の神様の参道の様相である。

朝夕夜、潮位などにより変化する景色は何度いっても神秘的です。ポイントには、強風が吹き、黒い雲、雷が鳴り、穏やかな海も波暴れ始める。赤い海中鳥居が波にのまれにない時に狙う、地球は神秘。この度は思いもよらず福岡県美術協会賞をいただき有難うございました。

# 彫刻 湯之原淳

## 「内包するかたち」

「floating」

豊福知徳賞

今回の制作においては、外見の形状だけでなく、その形を形成している内の形、内の空間を意識しました。また、作品を浮かせることで、逆に重力を意識する表現を試みました。

「彫刻的な視点（感性）で生きる」との恩師の言葉の意味を問い続けた日々。「彫刻はでこぼこのお化けぞ」との師の声が、今日も表現の可能性を探り続ける道を示しています。



# 工芸 白石栄子

## 「藍生葉染め 両綴織」

豊田勝秋賞

作品の水浅葱色は、藍の生葉で染めます。生葉染めは、藍を刈り取り、染液を作り、糸を浸し、絞り、空気・水にさらして、緑から青へと変化していく。夏の作業です。両綴織

は、沖繩の織物の技法で、織りを始めた頃から取り組んでいます。今回は、少ない色数と同色の縞で、深みのある表現ができたと思います。

植物は太陽の光で大きくなる。大きく育った植物は光の塊で出来ている。動物は植物を食べて生きている。光の塊を食べて生きている動物も太陽の光で出来ている。動物、植物を問わず全ての生き物は光の力で出来ていることに私は気が付いた。全生命体のシンボルとして「光の結晶」を制作した。あなたの体も光で出来ている。

# 彫刻 安川 弘造

## 「光の結晶」

富永朝堂賞



# 日本画 川野 正子

## 「寂」

山本文房堂賞

雨上り朝の散歩で、ある松の樹皮の美しさに息を呑みました。宇宙があると思いました。色、形は抽象の世界でした。スケッチは困難を極めとても思い通りには行かないものでした。抽象画家の気分でした。その松の表面を描き続けました。その松は先が曲がりくねり地に着き、起き上がりつており龍の姿に見えます。

# 書 緒方敏子

## 「小林一茶の句」

山本文房堂賞

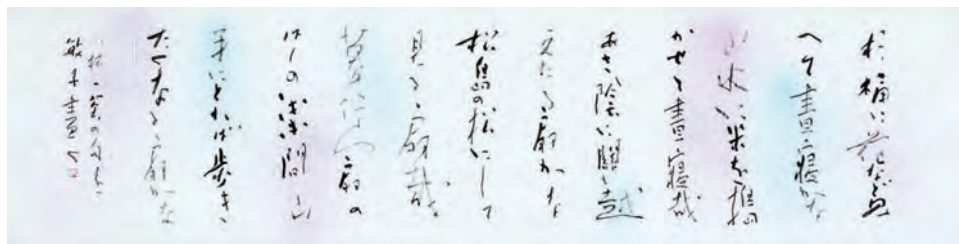
会員での初受賞、夢のようです。

一茶の句が大好きで、つい作品にと選んでいます。

墨の潤渾や文字の大小は勿論、それぞれの行間の間のとり方に苦労しました。

バランスよく見栄えが有り、心に響く作品が書けるように調和体を追求して参ります。

先生、友人、家族に感謝です。





## デザイン

佐土嶋 文香

「大切なもの」  
山本文房堂賞

縁あって我が家の家族になつた老猫のまる。

まる十家族と暮らすいつもの日常は、家族にとって最も愛おしい「大切なもの」。

漆喰をベースに、様々な素材を織り交ぜ、紡ぐ様に楽しんで描きました。

いつも家の何処かでゴロゴロしている、まるの世界を想像しながら…。



## 工芸

藤本 健一郎

「青磁鉢」  
山本文房堂賞

この度は山本文房堂賞を授与していただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思っています。同時に、身の引き締まる思いです。今までご指導いただいたてきた先生、諸先輩方に心より感謝申し上げます。今回、受賞の対象となった作品は余計な加飾を一切省き、轆轤に集中することで、自分の来し方行く末を思う為に制作したものです。



写真  
「雨ニモマケズ」  
山本文房堂賞



一日中小雨が降っていた6月でした。下校時間も過ぎ多くの子供たちも帰り、暗くなりかけた頃青い傘をさした女の子がやって来ました。傘の骨は逆さに折れ曲がり、足の指に巻かれた包帯は雨に汚れて痛々しく感じました。その子はけなげにも雨の中を黙々と歩み、家路を急ぐ姿は今でも忘れられません。

## 第77回福岡県美術展覧会を振り返り

福岡県美術協会 理事長 小田部 黄太

会員の皆様、県展お疲れ様でした。また、公募にご出品頂きました皆様、ありがとうございました。お陰様で、充実した実り多い展覧会になったと考えております。7部門の受賞者などを拝見しておりますと、福岡県の美術文化の充実を改めて実感いたします。

しかしながら、課題もございます。公募の出品数は減少を続けております。昨年は2年ぶりということで、2年分の出品ということもあつたかと思ひます。本年は、県展の公募から開催の時期にコロナ禍の第7波が重なり、その影響も大きかったのではと推察しております。その中で、デザイン部では出品規定の見直しを図り、出品数が増えしました。今後も規定の見直しなども含め、さらに魅力的な展覧会にしていける改革を進めていかなければなりません。会員の皆様にも公募への出品のお声がけに加え、ぜひ県展の改革に前向きなご意見を頂き、この課題に果敢に取り組んで参りたいと考えております。どうぞよろしくお願ひを申し上げます。



第77回福岡県美術展覧会表彰式



第77回福岡県美術展覧会 オープニングセレモニー（県知事賞受賞者によるテープカット）

## 2022福岡県シニア美術展を終えて

シニア展運営委員会 副委員長 城戸 久美子

コロナ禍3年目の開催では、感染者数が激増し、また例年にない猛暑日が募集締め切り間近まで続きました。更に空調の故障と予想外の事が起こりました。いろいろと心配をしましたが、応募総数は502点。昨年より30点増加し今年も豊富な人生経験に基づく味わい深い素敵な作品が出揃いました。

中止しておりました合評会は、密を避ける為に2日に分けて3年ぶりに開催しました。両日とも多くの方が参加され、熱心に耳を傾け、学び楽しみ喜び合う姿に改めて深い感銘を受けました。また、最終日は16:00迄とし搬出をスムーズにしました。

会員並びに関係者の皆様には、蒸し暑く大変な中ご尽力頂きました事心より御礼申し上げます。お陰様で滞りなく盛会の内に終わる事が出来ました。有り難うございました。

※本年度は、県知事賞7部門の受賞者に、江口副知事より県庁にて直接賞状の授与が行われました。



2022福岡県シニア県知事賞(最優秀賞)表彰式 県庁にて江口副知事より授与

## 令和4年 秋の褒章「黄綬褒章」受章をうけて

### 太田 哲三（工芸部会員）

私は窯業高校卒業後、目標だった焼物づくりに向かって実家の「太田熊雄窯」で七年間修業に入り、その後分家分窯し、小石原焼窯元として仕事に専念します。

初めて福岡県美術展に出品、初入選。現在は福岡県美術協会正会員として活動させて頂いています。

五十数年間作陶を続けて今も思う事は、自然の材料（土、

水、薪）をいかし、正しく使わせてもらい、「美しく健康な物」をつくり、生活の中に潤いを与えられるような仕事をこれからも続けたいというものです。

窯元の仕事は、家族と一緒にくり返しくり返しの働きで、出上がった物を皆で喜び、感謝しながら作陶の道一筋にできた事に嬉しく思います。



## 令和4年度 地域文化功労者 文部科学大臣表彰

### 太田 秀隆 名誉会員（工芸部）

福岡県美術協会に入会し、いつの間にか40年経ちました。何も分からず理事を引き受け、その後事務局長と役目を重ねる内に、我々福岡県美術協会の役割り、目的を理解する様になりました。

定款の趣旨にあるように、公益法人の根幹である地域文化の発展に寄与する事と共に、会員相互の研鑽と親和を大切にして、協会を盛り立てて行く事に重きを置きながら、これからの運営に携わっていただくことを切に望みます。

今回の表彰も理事の方や会員の方のご協力のおかげと思っています。改めて感謝申し上げます。



### 師村 妙石（書部会員）

令和4年度地域文化功労者表彰式が、11月15日、秋色に染まる京都御所に隣接する京都府民ホールにて厳粛に行われました。

文部科学省によるこの制度は昭和58年に創設され、芸術文化や文化財に関し、地域における活動を文部科学大臣が顕彰するもので、そこには多種多様な方達が登場されています。過去には、前衛美術の代表格の一人の白髪一雄<sup>しらがかずお</sup>画伯が受賞されており、新鮮な驚きでもありました。

今春、9時間半にわたる心臓の手術を受け、現代医学の力で、生命を頂戴しました。回復しつつある中での今回の受賞は、私に与えられた使命を果せとの激励ととらえ、地域に根差した芸術活動の継続に努めていきたいと思っています。会員の皆様には、今後共宜しくお願いいたします。



## 第30回ふくおか県民文化祭2022 2022ふくおか県障がい児者美術展「絵画・書道・写真」

昨年同様福岡県美術協会より審査及び、ギャラリートークのため美術協会より絵画部に光行洋子さん、書部に矢野菜山さん、写真部に徳永美奈子さんを推薦致しました。

- 11. 8 [水]ー11.17 [木] 福岡県庁 (092-643-3383)
- 11.29 [水]ー12. 4 [日] 九州芸文館 (0942-52-6435)
- 12. 7 [水]ー12.14 [水] 嘉麻市立織田廣喜美術館 (0948-62-5173)
- 12.17 [土]ー12.18 [日] 田川文化センター (0947-44-6470)
- 2023.1.11 [水]ー1.15 [日] 北九州市立美術館アネックス市民ギャラリー (093-882-7777)

## 福岡県立美術館 「スクール・ミュージアム事業（アートコース）」 美術協会員4名を講師として招聘



福岡県立美術館では、県内の公立小・中・高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒を対象に作品鑑賞を通して美術に対する興味関心を高めることを目的としたスクール・ミュージアム事業を実施しています。今回、県展会期中に3校が来館し、日本画、工芸、デザイン、洋画、彫刻、写真などの優秀作品を鑑賞しました。その際、美術協会員の小田部黄太氏、川島幹夫氏、筒井知徳氏、宇美拓哉氏に、作品解説や実演をしていただきました。作品の見方や感じ方へのアドバイス、制作過程の実演など、児童生徒はもちろん、引率の先生方からも大変好評をいただきました。

（福岡県立美術館 普及課 森北さわこ）



## 理 | 事 | 会 | の | 窓 |

### 部会委員改選のお知らせ

任期満了に伴う部会委員改選日程をお知らせいたします。

部会委員選挙投票への積極的な参加をお願いします。

■ 第一回選挙管理委員会開催（投票用紙発送）

…令和5年2月上旬

■ 投票…郵送による

（前回令和3年度投票率：72%）

■ 第二回選挙管理委員会開催…2月下旬

開票及び当選者への連絡（選任承諾の確認）

\*開票は、福岡県立美術館関係者1名の立会いの下、選挙管理委員会が行います。

■ 第三回選挙管理委員会開催…3月上旬

各部会当選者の確認及び理事長への報告

■ 理事会開催…3月中旬

新部会委員の承認

■ 新部会委員による第一回部会委員会開催

理事候補の推薦、正副委員長を選定

■ 令和5年度定時総会…6月中

理事の選任及び新三役選定

□ 選挙管理委員会

委員長：村里豊伸（事務局長）

委員：各部会事務局員

（文責：村里事務局長）



## 部会だより

## ■洋画部 洋画部会講演会

日時：8月12日（金） 会場：福岡県立美術館視聴覚室

講師：今年度県展審査員 中林忠良（銅版画家・東京藝術大学名誉教授・一般社団法人日本美術家連盟理事長）

演題：「造り手たちの裏側」

今年度の洋画部講演会はコロナ第7波の感染拡大に鑑み、無観客のビデオ収録を県美術協会のホームページで公開することになりました。試行的な取り組みでしたが、卓越した美術家、教育者である中林忠良教授のご指導と事務局のご協力により県展の開始日に合わせたスムーズな公開が出来ました。会員と広く福岡県の洋画家の皆様の自己啓発の一助に繋がれば幸いです。

講演は、初めに棟方志功や白根光夫などの作品制作様態や梶井基次郎、泉鏡花、柳宗悦などの著作を例に挙げ、また、ご自身の海外研修体験などを交えて、「芸術作品完成過程において作家一人の役割や責任は底が知れている。最後は他（自然、偶然、神、仏）に任せられている」という日本人に潜むアニミズム的固有の靈魂や死生観、美意識による表現や行動が日本人の作品の国際的な高い評価に繋がっていることについて言及されました。

次に、セザンヌ等の印象派以後の画家たちを物心両面で温かく支援していたオーヴェールの医師ガッシュが所有し、ゴッホたちも活用した一台の17世紀型木製銅版画プレス機が100年の

歳月を経て、フランスから日本の教育現場まで辿り着いた経緯を、中林教授が実際にDVD制作に携わったNHKの「東西交流の波」を紹介し解説しました。このプレス機はソフトなアクワチント技法に適するため、パリの長谷川潔に受け継がれ、その後、長谷川の白いレースの表現技法をめぐり、駒井哲郎、中林教授と研究室の若手版画家たち、即ち、「造り手たちの裏側」の表現技法研究開発にまつわる交流の経緯を経て、現在、芸大で大事に活用されていることが語られました。

最後に、ご自身の転機になった3時代の作品について紹介し、自作の「造り手たちの裏側」にある様々な想いや考えによる表現方法や素材開発などの実体験を語られて講演を締め括られました。

この歴史的に価値のある版画プレス機の流転物語は経済的な富や権利の追求から距離を置いた「造り手たちの裏側」の純粋な心と心の交流がもたらした、プレス機にとってもハッピーエンドな幸福な物語であったように感じました。

報告 宇田川宣人（福岡県美術協会洋画部理事）

## ■書部 書部会講演会

10月2日、県展表彰式終了後、同会場で講演会を実施した。講師は、読売新聞社の元文化部長で編集委員の菅原教夫先生。先生は日展書部の外部審査員もされている。演題は「書の現在」で、書が置かれている現状を踏まえ、先生が注目された最近の作品を挙げ、その理由と解説があった。また古典作品の紹介と共に、それらから学ぶことの大切さについても説明がなされた。そのことを通して、既成の書風からの脱却が重要であることについて再認識することができた。

参加者は約200名だった。書部では、これまで講演会を開催してきたが、コロナ禍の影響で中断し3年ぶりに再開した。会員、愛好者同士の相互研鑽と親和を図ることができる有益な機会となった。

鐘ヶ江 勢二（書部会委員長）



## 奥蘭久治さん 安らかに

福岡県美術協会 名誉会員 木戸 龍一（彫刻部）

彼と私とは福岡学芸大学（現・福岡教育大）の同期生です。年齢は彼の方が一つか二つ上です。

その頃（約六十数年前）、世の中は、60年安保反対や何やで学生運動が盛んな時でした。

彼は学友会の中心人物として活躍していましたので大変遅く見えました。私は学生運動には一応期待していましたが普通に絵の勉強をする学生でした。

或日、近くのスタンドバーで二人で飲んでいた時、ちょっと盛り上がり「学生の歌声に若き友よ……」と歌い出したところ、向うの方で飲んでいた〇〇新聞社の社員と称する三人組がいきなり店のイスを振り上げて「お前達のようなヤツが居るから……」と襲って来ました。何が何やら分らないまま、来るなら来いと外に出て私は相手の一人を投げ飛ばし次は誰

だ!! と構えていると急に奥蘭さんが「木戸さん逃げましょう」と言って彼のバイクで彼の下宿先まで逃げました。

こちらの方が優勢だったのに何故逃げたのか？ と不思議でしたが、翌朝目がさめると彼はもう〇〇新聞社にお詫びに行き、昨日の三人組ともその上役とも仲直りして来ましてと言う。彼はあまり説明はしなかったが、あのまゝ喧嘩を続けていたら怪我人も出ただろうし警察沙汰になったかもしれない……。彼はきっちりとした大人だなあと感心するばかりでした。

その後、彼はとは住居も職場も離れていましたのであまり会う機会も無く、たまに美術館で会う程度でした。

彼の作品は、一時、アクリル板と鏡を使って

令和4年7月6日逝去 86歳



虚空間と実空間との関係を追求する哲学的でもありコミカルでもある作品を造り、県展や中央団体の二紀展などにも出品し注目されていました。

私も、一時期アクリル板を使って三次元を超える作品を造りたいと思っていましたので、何か共通なものがあるのかなと思っていつも彼の作品を観るのを楽しみにしていました。

彼にとっても私にとっても彫刻することというのは、三次元の世界を追求し、また三次元を超える世界をのぞきたいという欲求を満たす為の唯一の手段ではないかと思います。

彼は私より先にその何かを見つけだしていったのではないかと思います。

奥蘭さん、私はまだ彫刻します。

## 株式会社 舛本建築設計事務所

代表取締役 一級建築士 舛本六助

■福岡県バリアフリーアドバイザー ■耐震診断 ■被災判定士

事務所

〒812-0023

福岡市博多区奈良屋町

14番3-903号

TEL092-271-5754

FAX092-291-2507

## 〈賛助会員のご紹介〉

多くの企業の御支援をいただいています。

- 九州電力(株)
- (株)福岡銀行
- 西部ガスホールディングス(株)
- 西日本鉄道(株)
- (株)西日本シティ銀行
- (株)九電工
- 九州旅客鉄道(株)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 朝日自動車(株)        | (株)テレビ西日本      |
| (株)味の兵四郎        | 東美 福岡店         |
| ASOポップカルチャー専門学校 | 長門博之法律事務所      |
| 有澤ホールディングス(株)   | (学)中村学園        |
| (株)岩田屋三越        | (学)中村産業学園      |
| (株)ヴォイス         | (九州産業大学・       |
| (株)ACR          | 九州産業大学造形短期大学部) |
| (株)エターナルラボ      | (株)中村美術堂       |
| 大松隆税理士事務所       | 日本デザイナー学院      |
| 北九州書道協会         | (株)博運社         |
| (株)喜多屋          | 筥崎宮            |
| ギャラリーSEL        | 晩香堂            |
| (株)久原本家グループ     | (株)樋口工業        |
| 健康住宅(株)         | 福岡芸生美術会        |
| (福)さわやか会        | 福岡ロジテム(株)      |
| (株)サンビルテックシステム  | (株)平助筆復古堂      |
| (株)上海堂          | 平成美術(株)        |
| 祥文社印刷(株)        | 墨扇堂            |
| (資)書材の丸大商店      | (株)みぞえ画廊       |
| (株)新出光          | ミナミ画材          |
| (株)杉田写真館        | 南谷総合法律事務所      |
| (株)ゼンリン         | (株)山本文房堂       |
| 太宰府天満宮          | 文房四宝 和美創       |
| タマホーム(株)        | (株)ワン・オフ       |

### 慎んでお悔やみ申し上げます。

- 奥蘭 久治さん (86歳) 名誉会員(彫刻部) 令和4年 7月
- 片岡 覚さん (92歳) 洋画部会員 令和4年 8月
- 金光 陽子さん (85歳) 日本画部会員 令和4年 8月
- 田原春 紫鳳さん (71歳) 書部会員 令和4年11月

## 福岡県立美術館

# 寄贈記念展 野見山 暁治

2022年12月17日(土)～2023年2月12日(日)

会期中一部展示替え 前期12月17日～1月15日、後期1月17日～2月12日

福岡県立美術館は、2020年に野見山暁治氏から油彩画37点を寄贈いただいたことを記念して「寄贈記念展 野見山暁治」を開催します。その後も炭鉱関連のデッサンなどを受贈したことによりその総点数は50点に上りました。

今回寄贈の油彩画は、1946年から2011年までに制作された、画風の変遷を豊かに物語る作品群です。特に、今回の寄贈の目玉である、90年代以降の絵画のダイナミズムを発揮させる圧巻の作品群は必見です。今なお自らの絵画表現に挑み続ける野見山の真骨頂ともいえる作品群です。また、終戦直後、空襲に焼けた福岡市内の風景を描いた《焼跡の福岡県庁》、故郷筑豊のボタ山の風景を描いた「廃坑シリーズ」などの福岡県にゆかりある作品もご紹介いたします。加えて、代表的な既収蔵作品である《廃坑(A)》《蔵王》など、そして本展開幕日に102歳を迎える野見山氏からの特別出品の最新作を含めた約60点でその歩みを展覧します。ぜひ会場で、野見山芸術の世界観をご覧ください。(福岡県立美術館学芸員 岡部 るい)

野見山暁治《言いたいことばかり》2006年 油彩・画布  
福岡県立美術館蔵



## 第106回二科展 内閣総理大臣賞を受賞 田浦 哲也(洋画部会員)

洋画部の田浦哲也会員(公益社団法人二科会常務理事)が、第106回二科展において、内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞作品は、タイトル『宇宙の差値』172.0×260.6 (cm)の大作です。第102回展の東京都知事賞につづいての受賞となりました。

### 《作品自評》

海から上がって、進化をつづけてきた人類は、医学の進歩により、死を免れ、まるで死後を生きているかのような錯覚にささ震われます。このように人類は自然な成り行きを変えたり乗り越えてきたように思います。ところが、ふと見えない未来を垣間見たら、進化の過程の遠い過去の自分のしっぽが映っていた…そんな先行きの見えない不安な時代を描きました。



## 日中文化交流の理想像

矢野 葉山 (書部会理事)

10月20日の読売新聞全国版(文化面)に同社編集委員・菅原教夫氏による記事が5段抜きで大きく掲載された。久々に開催の書部会講演会(講師：菅原教夫氏)からはじまり、日中文化交流に永年貢献されてきた書部会顧問・師村妙石氏に関する記事であった。師村氏の223回にも及ぶ訪中と諸活動の成果が確実に実を結び、民間レベルでの日中文化交流の理想像を具体的に見せているとの極めて高い評価がそこには綴られていた。全国からの反響も大変大きな記事であった。



額装・ラミネート加工・デジタルフォト加工大判出力  
TEL 0942-39-3377 FAX 0942-39-3390

天狗印上用粉・もち粉・だんご粉製造元

## 共栄産業有限会社

相談役 壇上 善一

〒830-0028 福岡県久留米市京町310  
TEL0942-32-5019 (代表) FAX0942-32-5130



# fas gallery

展覧会・出版のご案内

●新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、  
展覧会の中止、または閉館場合があります。  
開催の有無をご確認の上、お出かけください。

## 第73回 公募西部示現会展

■令和4年12月6日(火)ー12月11日(日)

■久留米市美術館 1F

出品受付12月2日(金)  
10時から会員の作品を始め110点程展示します。  
ご応募をお待ちします。

(重富 貞美)



「放課後」 秋吉 ヤス子

## 9人の作家によるRO展

■令和4年12月20日(火)ー12月25日(日)

■福岡県立美術館 1F

福岡県美術協会会員(デザイン)園こうじろう、小野多世子、湯浅亮子、垣外波瑠香、他による展示会。(園 こうじろう)



「昏迷の時」 園 こうじろう

## 文芸とアートのコラボレーション 天神展

■令和4年12月20日(火)ー12月25日(日)

12:00~18:00(最終日16:00まで)

■ギャラリーSEL・山本文房堂  
ギャラリー風・ひよこギャラリー天神

主催/福岡文化連盟 092-711-5585

福岡アートビエンナーレ2022 関連企画

変貌する天神の街をテーマに4つのギャラリーで同時開催。絵画・写真と俳句・詩・短歌とのコラボレーション。

(城戸 久美子)

「新緑の天神中央公園」  
八久保 卓爾



## 新春ドローイング

■令和5年1月2日(月・休)ー1月8日(日)

■ギャラリー風

デッサン会の仲間達です。故小田部泰久先生に御指導願った七曜舎の人達です。

(矢野 義徳)



「デッサン」

## 第15回 福岡市美術連盟 チャリティー展

■令和5年1月23日(月)ー1月29日(日)

■ギャラリー風

西日本民生事業団へ寄付を委託します。恵まれない子供達へご協力をお願いします。(中村 俊雅)

## 第18回 新春展 一若松書道協会役員展一

■令和5年1月25日(水)ー1月29日(日)

■旧古河鉦業若松ビル2F

若松書道協会役員による書展。年頭の抱負や新春にふさわしい題材で、漢字・かな・詩文書作品。(山本 飛雲)

## 中村俊雅と雅友展

■令和5年2月13日(月)ー2月19日(日)

■ギャラリー風

中村俊雅門下生の参加希望者が集い、親睦を計り作品についての研究また技術の向上等の情報交換を行う。(中村 俊雅)

## 森山耕工房展

■令和5年3月2日(木)ー3月6日(月)

■ギャラリー集

安政年間に創業した久留米耕の工房で、父と子で日本伝統工芸展で文部大臣賞、文部科学大臣賞受賞。(森山 哲浩)

## 第106回 二科展(福岡巡回展)

■令和5年3月14日(火)ー3月19日(日)

■福岡市美術館 特別展示室

巡回作品+地元作品(福岡県美術協会会員を多く含む) 絵画・彫刻・デザイン・写真4部門約360点を展示します。(田浦 哲也)

「暮し」 小野 由紀子



## 18th チャリティー 滝口文吾作品展

■令和5年3月28日(火)ー4月2日(日)

■ギャラリーSEL

隔年で行っているチャリティー展。油彩画「花」を描いた小品展。今回から新しい会場になります。

(滝口 文吾)

「使者」ー カラー咲く 滝口 文吾



## 第5回 緑人会写真展

■令和5年4月4日(火)ー4月9日(日)

■えーるピア久留米 市民ギャラリー

第五回と云う節目に当たりますので既発表作品を主に展示します。皆様の厳しいご教導をお願いします。

(井口 益次)

「陸魚」 洲上 忠臣



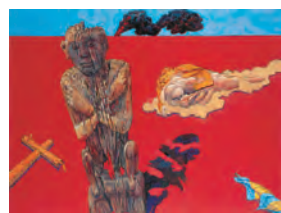
## 第89回 独立福岡展

■令和5年4月4日(火)ー4月9日(日)

■福岡市美術館 市民ギャラリー全室

東京展で展示された内、会員受賞者の一部と、地元出品者、約90点の絵画巡回展。

(鳥飼 壽徳)



「蒼天大地ー心に染まる悲しみ」 網谷 幸二 (200号)

## 濱田隆志作品展 ースペイン風景を中心にー

■令和5年4月24日(月)ー4月30日(日)

■ギャラリー風

スペイン各地の風景を中心に、油彩・水彩約25点を展示します。

(濱田 隆志)



「アレバランシ点景」P12 油彩 濱田 隆志

## 第61回 公募 北九州水彩展

■令和5年5月15日(月)ー5月21日(日)

■北九州市立美術館本館・アネックス市民ギャラリー

北九州水彩画会恒例の春展。会員、会友、一般公募の作品展で、日本水彩展への登竜門でもあります。

(木原 一郎)



第60回公募北九州水彩展 日本水彩画会支部奨励賞  
「下関・小瀬戸の白い漁船」 白倉 敏

## 久留米連合文化会 デザイン部 創部70周年記念展

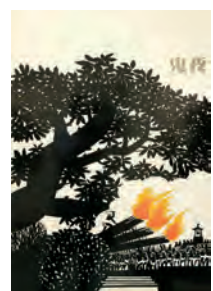
■令和5年6月6日(火)ー6月11日(日)

■福岡県立美術館 3階1・2展示室

久留米連合文化会デザイン部は1953年に県内グラフィックデザイン界においていち早く発足し、創部70周年を迎えます。先達の作品と現会員の作品を展示します。

(吉本 暢子)

物語者 「鬼夜」 檜枝 泉秀(幹夫)



編集後記 年に2回の「fas」発刊に携わって美術館に行く頻度が増した。夏号は、梅雨から初夏に。冬号は、秋から初冬にかけて。田舎道から山越して都会へ向かう道すがら、季節の移りいをお腹いっぱい満喫できる。今回もすっかりと色づいた山々、落ち葉の舞い散る山道をマスクを外し、窓を開けて運転する片道2時間の贅沢な時間。会報誌fasは魅力的な情報をお届けできるよう、広報委員皆で頑張っていきます。(広報担当理事:佐土嶋文香)

・えーるピア久留米 .....tel 0942-30-7901  
・北九州市立美術館本館 .....tel 093-882-7777  
・ギャラリー風 .....tel 092-711-1510  
・ギャラリーSEL .....tel 092-741-4890

・ギャラリー集 .....tel 0944-51-2545  
・旧古河鉦業若松ビル .....tel 093-752-3387  
・久留米市美術館 .....tel 0942-39-1131  
・ひよこギャラリー天神 .....tel 092-561-7145

・福岡県立美術館 .....tel 092-715-3551  
・福岡市美術館 .....tel 092-714-6051  
・山本文房堂 .....tel 092-751-4342

【広報担当理事】●(デザイン) 佐土嶋文香 【広報委員会】●委員長:(彫刻)津田三朗 ●委員:(日本画)峰松由布子/(洋画)大塚美和子/(工芸)津留崎順子/(書)古木青翰/(写真)角和典・堀川不二男/(デザイン)磯脇みつこ